

2020年10月特別賞

JA長野県グループ

農業を、
これからも。

昨年10月の台風19号災害では、
たくさんの方がボランティアが
駆け付けてくださいました。
皆さまの支援があったから、
農業をきりめたくないと思えました。
伝えきれない感謝の気持ちを、
農地に、注いできました。

乗り越えなければならぬことは
まだまだありますが、
ひとまず、信州は実りの秋です。



JAながの 岩崎浩吉さん
ムゴロさん
修理したトマトハウスでの作業中

「ベクターカメラを機動していたハウスは壊れましたが、代わりの土地が見つかり、家畜の世話にひとまず集中しました。次年度からは、自然にもっと安心の食料を届かせることに、できる限りの思いを込めています」



JAながの みゆきもも部会
部長 神田茂典さん
復興したランジ場で

「今年はランジに比べて早いペースで、米につかった助成金は、専らはお秋のものに回してまいりました。現地で米の収穫が、今のところ順調に進んでいます。自然を尊重してまいりましたが、道田に向けて頑張っています」



JA佐久浅間 市川秀人さん
再建したハウスで無事に咲いた
トマトハウスを見つめる

「被害が深刻し、土砂に埋まったハウスを見たときは悲しみに暮れました。JA中野の仲間から連絡で、次年度向けに土寄せを計画して見直しを、準備に励まされました。被害に限りは農業を続けたいと思います」



JA上伊那
農業振出人「みのお常盤」
理事長 大根長さん
たわに集った雑草を駆除して

「青苗の土が傾いたり、打撃を受けました。JAの協力で新たな畑を借り、ハウスを建て直す上、思いやりの心で再建するつもりです。若い後継者の輪も広がりますように」



JA信州うさだ青年部
部長 次久保昌博さん
長尾裕さん
新たな働き受け、開いた畑で
雑草を駆除したトマトハウスを背に

「週末畑を整理するなど、延長して耕作できなかった部分の作り直しも、収穫の準備も今は最優先にすることができました。来年はさらに規模を広げる予定です。早くは秋代のためにも、新しい農業の未来を信じる姿で立っています」



JA中野市 豊田清士さん
牧野さん
数年以上に及ぶランジを
前に

「収穫日前のランジがけりも来につかり、食料とかなんかお世話に感謝し、早くに駆けつけてくれた方々のおかげで作業を行うことができました。道田に隣接してはランジが広げられました。あきらめないことが大切ですね」



JAグリーン長野 専任部長
長尾浩一さん
専任部長 宮崎淳一さん
またも壊れた畑の復元準備
河川敷を駆けつけ

「両手に汗をかきながら、農業された側から言わせてもらえば、農業はきりめたくないと思いましたが、農でいなければならぬ。科よき々々も壊れたい。時期はわかるけれど、壊れた畑をひとりで、できることをやっています」



JAながの 栗田守衛さん
美子さん
復興期近の畑の準備中

「おっしゃるとおり、農でもらえるのが農業の喜びです。仲間も家族も、ずいぶんお世話になりました。今は準備期間です。準備期間の準備を急いでいます」

昨年の台風19号災害に際し、
多くの皆さまから、
支援物資の提供や農業ボランティアおよび
多額の義援金などのご協力をいただき、
心から感謝申し上げます。
誠にありがとうございました。

JA長野県中央会 各連合会
会長

伊藤 茂



2020年10月11日付 15段

JA長野県グループ [扱い ながのアド・ビューロ/制作 白井 亮哉、安斎 高志]